

みんなの しみサポ

札幌市市民活動
サポートセンターだより

10

周年記念
特別号

2014.1

札幌市市民活動サポートセンターは NPO やボランティア活動などの市民まちづくり活動を支援する施設です。



これまでたくさんの方に

ご利用いただきました。

これからもよろしくお願いいたします。

【特集】

10周年記念座談会@しみさぽつながるカフェ
“さっぽろのまち”と“市民活動”の10年
～「これまで」と「これから」～

主な内容

データでみるしみサポ
10周年記念座談会
つながる ひろがる 市民活動
カフェでつながる市民活動
10周年記念川柳

一人一人の思いがつながる街に

札幌市市民活動サポートセンターは「市民活動の総合的な促進を図ることにより、活力ある地域社会の実現に寄与すること」を目的に2003年9月にオープンした札幌市の市民活動拠点施設です。

市民の方が主体となる「札幌市のまちづくり」については『第4次札幌市長期総合計画』の中で「市民活動を活かしたまちづくりの推進」として掲げられ、平成15年に定められた施政方針『さっぽろ元気ビジョン』では「市民と共に考え、共に悩み、共に行動する」ことが大切であると記されています。

オープンから10年経った現在、当センターには2,000件以上の市民活動団体の方々が登録し、さまざまな社会的課題の解決のために活動を進めています。

この市民活動情報誌「みんなのしみサポ10周年記念号」では、日頃当センターを利用しているみなさんがどんな思いを持って、どのようにして活動を広げているかを紹介しています。

現在すでに活動に取り組んでいる方や、これから市民活動をスタートしてみようという方が「自分も同じ気持ちだった」「自分も応援や参加をしたい」と共感し、次の活動へと「思いをつなげる」きっかけのひとつになればと思います。

札幌市市民活動サポートセンター

札幌市市民活動サポートセンター『みんなのしみサポ』ヒストリー！



【創刊号】

2003年9月発行 発行者：札幌市
主な内容：オープニングイベント
(エルプラザ合同シンポジウム、市民活動パネル展)



【第12号】

2006年7月発行
主な内容：サポートセンター
インフォメーション
※サイズがA5判になってリニューアル



【第16号】

2007年11月発行
主な内容：インタビュー
「市民活動一問一答」



【第21号】

2009年7月発行
主な内容：事務ブース入居団体紹介
※サイズがA4判になり大きく
見やすくなりました



【第24号】

2010年7月発行
主な内容：しみサポインフォメーション
※一般公募の編集スタッフが
紙面づくりに加わりました



【第30号】

2012年7月発行
主な内容：NPO法が改正されました



【第32号】

2013年2月発行
主な内容：チカホでイネ！
市民活動がイネ！



【第33号】

2013年6月発行
主な内容：NPO活動に関わる
人材情報サイト
「ハローNPO札幌」オープン

平成18年度からは指定管理者制度導入により、(財)札幌市青少年女性活動協会(現 (公財)さっぽろ青少年女性活動協会)が発行しています。

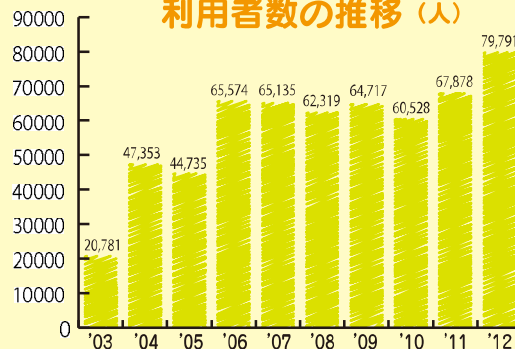
データでみる しみサポ

市民活動に取り組む人や団体は、この10年でどのように推移してきたのでしょうか。ここでは、グラフと年表で活動の広がりや変化をみてみましょう。

登録団体数の推移（団体）



利用者数の推移（人）



2003年から2012年までの延べ利用者数は578,811人。登録団体数はオープン之年と比較すると2倍以上！多くの方が市民活動に参加していることがわかります。

現在登録している団体の活動分野としては「学術、文化、芸術またはスポーツの振興」が最も多く、次に「子どもの健全育成」となっています。

主なイベント・事業

札幌市市民活動サポートセンターでは、市民活動に取り組む方の支援としてさまざまな取り組みを行ってきました。ここでは、「イベント・事業」から10年の変化をみてみたいと思います。

2003	2003 年度	オープニングイベント、事務ブース交流会
2004	}	さっぽろ NPO 元気サポートローン、市民活動団体訪問ツアー
2005		
2006	2005 年度	「市民活動団体組織運営力レベルアップ講座」
2007	2006 年度	エルプラザ特別企画「秋の芸術体験会」「しみサポカフェ」
2008	}	市民企画講座、エルプラ感謝祭
2009		
2010	2009 年度	市民企画講座（20 団体）、しみサポ調査隊、しみサポ出張所
2011	2010 年度	ポイント支援講座、サロン事業、市民活動ミッションPR
2012	}	チカホでイネ！市民活動がイネ！
2013		
	2013 年度	しみサポつながるカフェ、市民活動はじめて講座

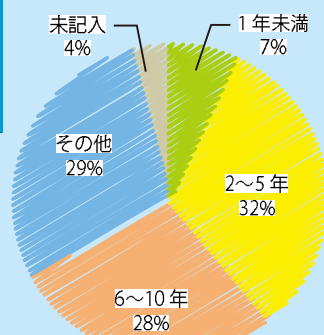
「豊かな地域社会の実現」を目指して「市民企画講座」など市民活動団体との連携事業を開始。市民との交流とふれあいをとおして、市民活動と当サポートセンターの周知を行いました。

「団体活動支援」だけではなく「これから市民活動をはじめようとする方へのきっかけづくり」に重点を置いて「人と活動をつなぐ」ことを進めました。

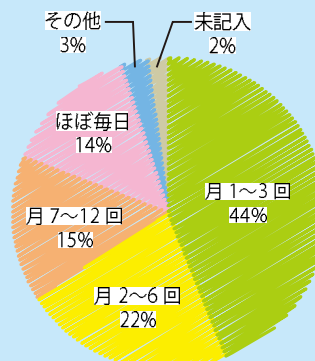
※2006年度からは指定管理者制度導入により、（財）札幌市青少年女性活動協会（（公財）さっぽろ青少年女性活動協会）が管理・運営を行っています。

しみサポ 利用者 アンケート ①

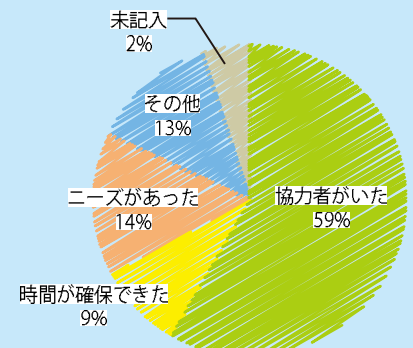
市民活動団体のメンバーは、これまで活動とどのように向き合ってきたのでしょうか。そして、今後どう発展して行くのが望ましいと考えているのでしょうか。市民活動情報誌『みんなのしみサポ』編集ボランティアスタッフがアンケートを実施しました。（回答者 224 人）



<活動歴>



<活動に費やす時間>



<継続できた理由>



では、答えてくれた方たちの思いをみてみましょう。

しみサポ 利用者 アンケート ②

みなさんからお寄せいただいた声を紹介します。

始めた
きっかけは？

3.11震災
縁あって
子どもが障がい者になった
貧困・格差をなくしたい
命を守る
役に立ちたい
困っている人がいる
子どもの未来のため
友人の誘い

若いお母さん
未来を考える人
前向きな人
団塊の世代
他人を思いやれる人
若者
仕事として活動したい人
どなたでも
見守れる人
長続きする人
会社員のお父さん
異質な人
パソコンのできる人

参加して
欲しいのは
どんな人？

1位 絆
2位 和
3位 協
4位 活
5位 生
6位 動
7位 喜
8位 輪
9位 愛
10位 力

市民活動を
漢字で表すと？

活動を
続けていて
よかったことは
なに？

人とのつながり
成長できた
役に立てたという満足
たくさんの思いを聞いた
事業として成り立った
子どもたちの笑顔
理解者が増えた
ひとりで悩まなくても良い
目標に近づいている実感
感謝の言葉
被支援者の変化

あなたにとって
「市民活動」って？

住みやすい社会を創る
大切なことをみんなで形にする
非営利
市民による「事業」
身近なことを話し合うことから始める
誰でも参加可能
ボランティア
新しい価値の創造
自立した人のあたり前
定義づけは不要
社会参画
人と人をつなぐ
自分達の課題を自分達で解決

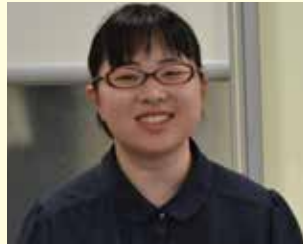
“さっぽろのまち”と“市民活動”の10年 ～「これまで」と「これから」～

市民活動団体がお互いの活動を伝え合い、新たな仲間づくりをするきっかけになれば…と毎回テーマを設定して開催している「しみサポつながるカフェ」。10月には市民活動サポートセンター開館10周年を記念して、市民活動団体の方々と「みんなのしみサポ」編集ボランティアが座談会を開催しました。みなさんがその活動にどう向き合っているのか、今後の発展のためにはどうしたらいいのかなど、市民活動団体の問題点や悩みなどが話し合われ、有意義な座談会となりました。

司会 つながるしみサポカフェ、きょうのテーマは「札幌のまちと市民活動の10年」です。では、まず活動をはじめたきっかけと現在の自分たちの活動について教えてください。

やればやるほどやるが増える

平田 ある時、テレビでネットカフェ難民の番組を見て、これは一体どういうことが起こっているのだろうと思って、湯浅誠さんの書いた「貧困襲来」という本を読んで、貧困問題は自己責任ではなくて社会構造の問題であるということに気がつきました。活動に関していえば、やればやるほど課題が見えてきて、やるのが次々にふえてくるというのが実感です。これは、どの分野の活動をしている人たちも同じではないかと思っています。
長嶋 ボランティアの世界に入ったのは、震災がきっかけです。それまでは、目の前のレポートやテストに追われていましたが、さすがにあの時は何かしないといけないという気持ちになりました。イベントをしたり、フリーペーパーを発行して、震災支援の情報を収集して発信する活動をしています。学生でやっている活動なので、資金も限られていますし、本当に、情報発信のイベントには意味があるのかと思いながら続けています。



高橋 絵実さん

札幌国際大学
人文学部心理学科3年
9月に開催された「エルプラ
まつり2013」にインターンシ
ップとして参加

高橋 絵実さん 私は9月に行われたエルプラまつりをインターンシップでお手伝いしたのがきっかけで、ここに参加させていただきました。今は社会のこと、身の回りのこと、市民活動のことなど、いろいろ知ってきた感じです。

水崎 エルプラザがオープンするときからずっと通い続けています。10年以上前から海岸清掃の会をしています。「海はふるさとであり、海岸清掃は心もきれいになることだ」という合い言葉で、そのふるさとを大事にしようというのが大きな目標です。

活動を後押しするのは実体験

司会 みなさんが行動するとき、その背中を押してくれるものは何なのでしょう。

平田 途中でやめないで続けられている人たちは、自分自身の体験がそれを後押ししている部分があるかと思っています。自分自身が親とうまくいっていないとか、仕事がなく困ったことがあるとか…。私は、家庭のことやお金のことで困ったことがあって、人ごとではないのです。実際に会っている中で感じるのは、その人を押す何かは過去の経験の中でその人に蓄積されたものの中にあるのではないかということです。



平田 なぎささん
ビッグイシューさっぽろ
事務局長

長嶋 私は震災のときに故郷の栃木に帰省していて、塀が壊れたりして、いろいろ大変なことを、それこそ身をもって経験したのが始まりです。私以外にも、ボランティアで被災地へ行くと、現地の人たちとすごく仲よくなって、身内のことのように感じて、その後も活動が続いていくという経験をしている人が周りにいっぱいいます。最初の第一歩は、使命感なのかもしれないけれども、楽しいこともある、達成感もあるということで、続けていけるようになるのかなと思っています。

水崎 やはり、自分自身が体験したことであるか、ないかというのが物事の大きな分岐点になるのではないかと思います。誰かの話を聞いて、自分だったらどうかと考えて、実体験に結びつかない部分は、わからないので自信がなくなるのです。そうすると、じっとしていられなくて、その答えを見出すために、あちらの方も、こちらの方も体験を、となり、私はそれで、いろいろな団体に所属することになってしまいました。
大平（編集ボランティア） 続けられるかどうかは、ボランティアに一回でも参加したときに、感動するかどうかだと思います。この間、海浜美化の運動に参加したのですが、最初はこんな広いところを清掃しても無理だよと思っていて、それよりそのあとの温泉に入ることばかり楽しみにしていたのです。でも、終わった後、実際に浜がきれいになったのを見てすごく感動しました。だから、感動すると、参加する人や続けられる人が増えてくるのではないのでしょうか。どういうふうに感動を持たせられるかが重要なことだと思います。

つながるということ

司会 平田さんは先ほど、やることがどんどん出てくるということでしたが、やっていてよかったということはどんなことでしょうか。

平田 いろいろなことをやっている人と知り合うことができましたということです。ホームレス問題というのは、障がい者の問題、母子家庭の問題、労働問題など、あらゆる問題と地続きでつながっているの、ほかのいろいろな団体と連携していけば、大きな変化ではないとしても、何かみんなできられることは

あると思っています。国なら国、行政なら行政でいろいろな制度をつくったとしても、必ずそこから漏れてしまう人はいるので、結局は、いろいろな人がいろいろなことをやって、それを埋めていくしかないと思います。私は、私がつながれる人とながって、少しでもよくしていきたいと思っています。

水崎 つながるということに関しては、市民活動サポートセンターは大きな役割を果たしていると思います。できるだけつながりを持ちたいと思い、事務ブースに入った人たちの顔合わせ会を、年に一度していたのですが、ふだん顔を合わせることが非常にまれな団体の方には、連絡のしようがないので、印刷物をつくってブースのしかるべきところに置いています。1回につき1枚ですから、本当にさやかですが、今、第58号になりました。これがつながるきっかけになればと思い、続けていくつもりです。それと、ブースにかかわった過去の団体が10年で100団体ぐらいになると思うので、その人たちをリストアップして、連携の網をつくるのも一つの方法かと思っています。

長嶋 私たちも、つながるということが重要だとわかりました。震災支援をやっている団体は、私たちのほかにいっぱいあったから、つながるという名目で、いろいろな団体が共催でイベントをつくったのです。とても有意義な時間ではあったのですが、つながるためのイベントをやるために労力を割かれて、もともとの自分たちの活動がおろそかになるという本末転倒なことになってしまったのです。どこかの団体がつながるという役割を担って、まとめ役のような活動をする組織が必要なのかとすごく感じています。

長嶋 私たちも、つながるということが重要だとわかりました。震災支援をやっている団体は、私たちのほかにいっぱいあったから、つながるという名目で、いろいろな団体が共催でイベントをつくったのです。とても有意義な時間ではあったのですが、つながるためのイベントをやるために労力を割かれて、もともとの自分たちの活動がおろそかになるという本末転倒なことになってしまったのです。どこかの団体がつながるという役割を担って、まとめ役のような活動をする組織が必要なのかとすごく感じています。

水崎 私たちは、活動の目的、分野は関係なく、いろいろな人と協力してつながっていくことがすごく大事だと思います。つながっていく具体的な取り組みがあると、まだ埋まっていないところが埋まっていったり、運営に関しての解決策につながっていくのかなと思っています。

善意があればお金はいらない？

司会 みなさん方はこれからどのような活動をしていきますか、そのために必要なことは何でしょうか。

宮本 ボランティア精神とは「善意の心で社会貢献すること」と、すごく温かい言葉になるけれども、現実的には、受ける人にもそれをきちんと教えてあげることが必要です。目的に沿って、教育等を含め、経済問題も含めて、きちんと形をつくっていかないとまずいと思っています。

水崎 私は、社会教育の中核をなすのが市民活動サポートセンターだとも思うのです。それから、ボランティアとは一体何なのだろうと。どうあればボランティアと言っているのか、これがいまだに私の課題なのです。それは、多くの人たちが一度は考えることではないでしょうか。そして、それが多く話題にされるのが市民活動サポートセンターなのだと思います。

大平 ボランティアをやっていくに当たっての資金ですね。携わっている人の生活には資金が必要ですから、そういう面はどうするか。続けるためには、生活費も絶対に必要です。それが得られないためにやめていく人はたくさんいらっしゃいます。もったいないと思います。

平田 結局、ボランティアというのは、ある程度の時間の余裕とか、生活の余裕がないと続けていくのが難しいのです。

宮本 僕は、法人を立ち上げて5年目なのですが、ボランティア活動やNPO活動の中で大変なのはPR、集客、モラル、もう一つは運営資金の問題です。今、これが一番の課題なのです。これは、これからボランティア活動やNPO活動の長

いテーマになってくるのかなと考えているのです。

寿田 NPO団体は、自分のところの宣伝だけではなくて、みんながボランティアに興味を持つような、例えばポイント制だったり、地域通貨であったり、というような社会的な仕組みを考えていく必要があります。

行動すること、続けること

司会 高橋さん、いろいろお話を聞いて、どうですか。

高橋 私自身は、市民活動サポートセンターがどういう場所なのかさえ知らなかったの、周囲への情報発信がちょっと少ないのかなという感じがします。活動については今まで、自分が諦めたり、後回しにして、結局やらないということが多かったのです。話を聞いていて、一歩踏み出して行動することがこれから必要になると感じました。これを機に、ちょっとずつ関わっていければと思います。

長嶋 卒業後は栃木に戻るの、今の活動からは一歩離れるでしょうが、休日や就業後を使って、何かしらやりたいという気持ちはあるので、何かの機会があれば続けられると思っています。社会人になったら、学生が頑張っている団体に協賛という形で後押しができるようになりたいと思っています。

水崎 これからは、「わたしたちは、時計台の鐘がなる札幌の市民です」から始まる札幌市民憲章を活用していただきたい。いろいろな登録の申し込み用紙を書くときに、それぞれの団体は自分たちの活動が市民憲章の中のどこにどういうふうに関係してくるか、ということを見通してやっていただきたいと思っています。

司会 みなさんには貴重なご意見をたくさん聞かせていただきました。まだまだ語りつくせないのですが、今回はここまでにしたいと思います。今日はありがとうございました。



座談会を終えて…

札幌に暮らして、札幌市民で良かった！と思えるような街であってほしい、そして市民活動団体それぞれの活動が、札幌市民一人一人に浸透していったら素晴らしい！私たち編集ボランティアもできる限り力を尽くしたい…そんなことを感じた座談会でした。

つながるひろがる 市民活動地域での活動レポート

札幌の市民活動団体の中には地域の施設や人と連携をして活動を進めている団体が多くあります。

市民活動は、自分たちだけではなくさまざまな方とつながり、パートナーや支援者を作りながら活動を広げていくことが大切ですが、難しい部分でもあります。

ここでは、実際に地域で活動する団体の方からの「連携のコツ」や「地域への思い」をお伝えしたいと思います。

西岡の文化を育む会 (まちづくりの推進を図る活動)

「子育て」を楽しく 地域の方たちと一緒に

15年前、私たちは子育て中の若い母でした。子どもたちに良い経験をさせてやりたいと願っても、子連れで劇場などへいくのは経済的にも肉体的にもたいへんなことでした。ある日の井戸端会議の最中、みんなで知恵やお金を出しあえば、地元「西岡」で楽しいこと、ワクワクすることを子どもたちとやれるんでないかい！とみんなの気持ちがまとまりました。

メンバーにはPTAやボランティアで活躍している母が多く、地域で活動することは普通で自然の成り行きでした。地域や市内には技を究めた方々がたくさん住んでいます。知人や偶然の出会いを通してこうした方々をお招きし、コンサートや講演会、読み聞かせなどの活動を重ね、子どもも母も育ちあってきました。私たちの力が足りない時は、まちづくり、子育て支援、保健センター、児童会館などに協力していただき、区民センター、町内会館など地域の施設をフル活用して活動してきました。

今、子どもたちはそれぞれの道へ巣立っています。が、母たちは「食は文化・食は養生」をテーマに「紅茶」や「薬膳」のワークショップで、「自分育て」を楽しんでいます。子育てサロンで「わらべうたであそぼう」に取り組み、「孫育て」をしています。

「やってよかった！またやろう……でも疲れてきたなあ。止めようか。」と心は揺れるのですが、そんな時に限って「わあ、すごい！すてき！」と目を見張るような人との出会いがあり、続けて来たと感じています。

活動するためのヒントは普段の暮らしや街の中にたくさんあります。人と出会うことによって自分の世界が広がります。そのヒントをキャッチしながら多くの人との出会いを大切に、これからも活動を続けていきたいと思っています。



問合せ

担当：山城 裕美さん
電話：011-583-8369

北海道退職校長会 札幌厚別支部 (子どもの健全育成を図る活動)

地域の一員として子どもたちを支える ～児童会館での教育支援活動～

平成19年頃から、組織として「地域の教育発展のために私たちは何ができるか？」検討を重ねていました。平成21年に「札幌市青葉まちづくり会議の地育部会」から、当時の支部長に「児童会館で子どもたちの、勉強のお手伝いをしてほしい」と依頼がありました。このことがきっかけとなって、今の活動が始まりました。

小学校の夏休みと冬休みに地域の児童会館3館で実施しており、子どもたちが持参するプリントやワークブックの答え合わせや丸つけをしながら「教える」のではなく「励ます」「褒める」ことで、子どもたちの学習意欲を高めるようお手伝いしています。今年度は、3児童会館に夏・冬休みに来る子どもたちの延合計約2100名を対象に、合計で60名の会員が支援にあたりました。

参加した子どもたちから「教えてくれてありがとう！」「勉強がんばるよ！」「また来てください。」など書かれた手作りのアルバムをいただきました。会員からも「たくさん元気もらった」「学習に興味や楽しさを感じてくれて喜びを感じた」など、子どもたちから「元気、喜び、楽しさ」を得ることができました。

児童会館と一体となった教育支援を実現することで、元教員である私たちは、子どもたちへの教育支援活動とおして、地域社会に少しでも貢献できる喜びを感じています。

今後も教育支援活動は継続しますが、地域に根ざした活動をするためには「自分たちができる範囲」で取り組み、たとえ組織であっても地域の一員であるという意識を忘れないことが大切ではないでしょうか。

『子どもたちは地域の宝』です。これからも児童会館や町内会などと連携しながら“地域の子どもたちを地域で見守る”街にしていきたいですね。



問合せ

担当：支部長 日向 徹雄 さん
電話：011-897-9551

NGO つばみ学校 ポカラ (子どもの健全育成を図る活動)

企業と連携した「母国との橋渡し のためプロジェクト」が進行中

私が生まれ育った家は、決して裕福ではありませんでしたが、両親が海外で勉強をさせてくれたことが、今の活動の原点となっています。

13歳からオーストラリアで勉強し、高校卒業後、母国ネパールの大学へ進学しましたが、「自分だけが勉強できる環境にあること」に疑問を持ち自問自答を繰り返しました。その結果「教育」が大切であることを痛感し、20歳の時に渡米、貧しい子どもたちへの本を読み聞かせや勉強を教えたりするなど「できることからやる」ボランティア活動に取り組んでいました。

2005年に日本で「つばみ学校ポカラ」を設立し寄付活動を始めましたが、私自身が目立つことが好きな方ではなかったため、活動も波に乗ることができない日々が続きました。

このまま団体単独で活動することは難しいと思い企業との連携を考えました。寄付をお願いする時は、お金ではなくギフトや文具など、その企業が出来る範囲での支援をお願いし、反対に支援を申し出ていただいた企業の方にはビジネストークではなく「何ができますか？」「どのような支援をしていただけますか？」と伺い、活動に必要なものかどうかを判断したうえで、支援をしていただいています。

今後は、他の団体のように会員を集め会費で小さな活動（運営）をするのではなく、「つばみ学校ポカラ」から独立した形でプロジェクトを立ち上げ、企業と共にそのプロジェクトを支援するソーシャルビジネスモデルを作り運営したいと考えています。企業と上手くコラボレーションし、互いが「WIN=WIN」の関係となるソーシャルビジネスへと変化させていきたいのです。

人とのつながりがコミュニティへとつながり、コミュニティがつながらなければ世界は変わらないと思います。さまざまな人々とつながり、世界を広げることが活動の幅の広がりにもつながると思います。



問合せ

担当：ディリップ・BK・シュナールさん
メール：tsubomigakko@gmail.com

NPO 法人あそベンチャー スクール (環境の保全を図る活動)

地域の教育機関と手を取りあって 幼児からの環境教育を

「NPO法人あそベンチャースクール」は『1人でも多くの子どもたちに自然体験の機会を提供すること』そして『大きな夢を持って明るく元気に生きていくことのできる人、社会を育てること』を目的に2002年に設立された法人です。

冒険、自然体験学校として主に小学生を中心として環境・自然・体験教育に取り組んできましたが、活動を進めていくうちにもっと幼少期からの「気づき」につながる教育が必要ではないかと考えるようになりました。

5年ほど前に「地球に優しいまちづくりを進める西区民会議」の委員になり、その中で「自然環境」について取り組んだことが地域連携のきっかけです。連携というよりは「当事者同士」として幼児教育に係る方と幼児向け自然環境教育の実践活動に取り組むことになりました。

教育機関とNPO団体が良い関係を築いていくためには、お互いの持つ専門性、得意分野を持ち寄り、垣根なく輪になって「一緒に地域の子どもに関わる」という気持ちを持って取り組んでいくことだと思います。

幼児教育においても、自然体験、環境教育は重要な要素として考えられていますが、指導方法や自然に係る情報については十分とはいえない現状があり、専門性をもった私たちが教育現場に携わることがきっかけとなり、活動が広がっていきました。

地球の裏側に思いを馳せる為にも、自分の家の玄関を出た目の前の草花に目を向けるということも大切で、幼児期の体験はまさにそのスタートです。地域の自然、地域の人にこだわった体験を重ねることが豊かな未来につながると考えています。



問合せ

担当：田中 住幸さん
電話：011-632-7700

NPO 法人公園 ねっとわーく (まちづくりの推進を図る活動)

まちづくりを考える人や 組織が集まって公園を利活用

「NPO法人公園ねっとわーく」は「公園はみんなのもの」をテーマに、地域みんなで公園を考え活用するために、いろいろな場所でいろいろな人たちと一緒に活動することを目的に2001年に設立された団体です。

札幌市内にある大小さまざまな公園を「まちのコミュニティの場」として捉え、大人と子どもの遊びのプログラムや交流会、ワークショップなどを行いながら公園と公園、活動と活動、人と人をネットワークしていくための活動をしています。

「東区まちづくり市民会議」が地域での市民活動をはじめたきっかけです。市民活動団体が地域の人とつながるというよりも、その頃すでに各地域でまちづくり活動に取り組んでいる方が中心メンバーになり「地域に住む人自身が、自分たちの抱えている問題に取り組む」スタイルでした。そのため、問題も明確で活動もスムーズにスタートしていきました。

各地域の方が集まって活動を進めていくと、問題が明確で進みやすい反面「自分の居住地域以外の活動には意見を出しにくい」などの課題もあります。そんなときに、中立的な事務局がつなぎ手となってお互いを結びつけることに力を入れました。すると、一つの地域から始まった公園活用のプログラム「忍者修業」も周辺のさまざまな地域へと広がっていきました。

町内会をはじめとした地域の方たちと「何か」を始めたいと考えたときには『まちづくりセンター』に相談に行くのが良いと思います。町内会の役員さんをはじめとしてキーマンになる人や地域の状況などの情報が集まる場所です。

これからは「忍者修業」を使ってそれぞれの地域、歩いて集まることのできる範囲や地域で引き継いで活動を進めていける人や団体を見つけていきたいです。



問合せ

担当：中村 佳子さん
電話：090-8630-7737

NPO 法人森林遊び サポートセンター

(子どもの健全育成を図る活動)

小学校と連携して 自然の大切さを伝える

「NPO法人森林遊びサポートセンター」は、「森林を守り育てる」「子ども達の森林環境教育」「自然を活用した健康増進」という目的のもと活動に取り組んでいる団体です。

平成3年に任意団体として設立し「山歩き」「自然観察」などを主な活動としていましたが、平成16年の台風による森林被害と、子ども未来の森林づくり推進事業として札幌市内での「げんきの森づくり」の相談を受けたことがきっかけとなり、子どもたちへの環境教育に取り組むこととなりました。

現在は藤の沢小学校、駒岡小学校、簾舞小学校の3校と事業を行っています。具体的には地ごしらえや植林といった森づくりプログラムや、自然観察しながら樹木の名前や特徴を覚えていく「子ども樹木博士認定」を行っています。

カリキュラムの一環として事業を実施しているのですが、学校と連携していくために大切なことはキーマンとなる人を見つけていくことです。校長、教頭、教務の先生などの中に、環境教育に関心のある方がいると、スムーズに相談が進みます。札幌には学校林を持つ学校や自然に近い環境にある学校が多くあります。

しかし、どのように環境教育、森林教育、安全管理を進めて良いか悩んでいる方も多くようです。その時に専門性を持つ私たちのような存在が、力を発揮できるのだと思います。

学校での連携事業を進める時には、先生たちだけではなく地域の方たちの協力も重要です。私たちがどんな団体なのかを伝えるだけではなく、地域の方たちの一人一人がどんな方でどんな思いを持っているのかを知ることが大切で、駒岡小学校とは年に一回、地域の方と協力したイベントを実施しています。

連携を深めるため、というよりは一緒に考え行動するために、まず関心を持つこと、特に自然・環境の場合は、外に出て関心を持つことが大切なことだと思います。



問合せ

担当：小林 文男さん
電話：090-9757-8888

NeoLos 幌北

学生と地域で考えるまちづくり会
(まちづくりの推進を図る運動)

地域の方と学生がともに 安心安全な地域をつくる

学生と地域でまちづくりを考える会「NeoLos 幌北」(ねおろす)は、集合住宅に住む学生が大家さんに地域のお祭りのお手伝いを依頼されたのがきっかけで生まれた団体です。2007年から札幌市北区の幌北地区で活動しています。幌北地区は北海道大学も近く、大学生や留学生が多く居住し、札幌でも平均年齢が一番若いのが特徴です。

現在は、幌北まちづくりセンターに籍を置き、そこを拠点に活動を進めることで、地域の方々とかかわりを深めることや情報を得ることができています。

NeoLos幌北の活動には「地域住民との交流」「地域情報誌の発行」「留学生交流」という3本の柱があります。中でも「地域住民との交流」が全ての活動の基礎であり、主要な目的です。夏祭りやミニミニ雪まつりなど一年をとおしてさまざまなイベントに参画し、たくさんの方が交流して地域の課題を解決していくことを目指しています。

毎月1回の定例会では、町内会の方や学生だけではなく、まちづくりセンターや地域の主要な施設・組織の方も参加し、それぞれの立場から幌北地区のことについて熱く話し合っています。

地域の方と活動を進めるようになり、学生にも変化が生まれているようです。これまで意識することの少なかった「周りの目」を感じ、自分の生活態度を見直したり「地域の子どもたち」のために活動したいという声があがったりしています。

地域の方と交流や連携することの重要性は、頭でわかってはいてもなかなか実践する勇気がわいてこない方もいるのではないのでしょうか。そんな時も一歩踏み出せば、つながることができると思います。「一緒に自分たちの住む地域を楽しむ」気持ちが最も重要なポイントです。

さまざまな場面で地域の方と学生がつながり理解し合うことのできる機会をつくって、現在のこの関係を続けていけるように活動を進めていきたいです。



問合せ

担当：川向 亜実さん
電話：011-726-6345 (幌北まちづくりセンター)

NPO 法人札幌 VO

(社会教育の推進を図る活動)

地域の中で青年が 成長していくために

「NPO法人札幌VO」は15歳以上の学齢期を過ぎた青年達を対象に、「責任をもって生きる人間になろう」というテーマのもと、社会にでて働くことで学ぶプログラムを行っているフリースクールです。

15歳までは学校という居場所がありますが、その後、障がいや他の理由で学校・仕事に行けなかったら？どこにも所属できない青年たちはどうやって自分に期待したらいいのか・・・。「自分は社会に必要とされている」ということが体験できる場が必要だと考え、若者が希望を持てる場所、社会で勝負できる場所をと、この団体を立ち上げました。当初はライブイベントが中心の活動でしたが、支援をしていただく方のご縁もあって、2009年に白石区菊水に活動の拠点となるコミュニティカフェをオープンしました。この他にも、白石ふるさと祭への出展など積極的に地域の方とつながる機会を作っています。現在はリサイクルショップ「おもしろマルシェ」を運営しています。

私たちが拠点を置く地区は比較的高齢の方が多い地域ですが、みなさんが暖かく支えてくださいます。

地域で活動を進めていくうえで大切なことは「直接関わること」です。札幌VOにはイベントやショップ等さまざまなプログラムがありますが、いずれも青年たちが責任者となって運営しています。私が先回りをして指示することはありません。直接関わり、一緒に仕事を進めることで、青年自身が地域の方々と関係を作っていくことが重要なのです。いかにNPOが地域とつながっていくかというよりも、青年たちが社会と関わり暮らししていくために、たくさんの方と出会う場をいかに作っていくかを大切にしています。

青年と地域の方、一人一人がつながることで青年が少しずつ成長し「これが、自分の仕事だ」と思って自分の居場所を見つけて行けるよう、これからも活動を進めていきたいです。



問合せ

担当：杉森 洋子さん
電話：090-3019-5884

“カフェ”でつながる 市民活動

市民活動団体の中には、コミュニティの場として、誰でも気軽に立ち寄ることができる場(カフェ)を運営している団体があります。食や文化など、主となるテーマやイベントなどその内容はさまざまですが、いずれも「人と人がつながること」を大切にしているスペースです。

「市民活動にいきなり参加するのは気が引けてしまう…」という方でも、大丈夫。ちょっとだけ足を延ばして、いつもと違う空間、いつもと違う「交流」を楽しんでみませんか？

カフェそれいゆ

建築会社さんとのコラボで実現したカフェです。近隣の方に安くて美味しいランチとスイーツ、そして挽きたての珈琲をお出ししています。

住 所 札幌市東区北32条東18丁目6-10「リフォー夢工房」1F
TEL 080-1978-6822 **FAX** 011-374-6041 **定休日** 土・日・祝
営業時間 11:00～16:00 **運営者** NPO法人 リカバリー
アクセス 地下鉄東豊線新道東駅3番出口より徒歩5分

楽しいモグラクラブ

生き方を探す人たちが、穏やかなルールの中で集う喫茶です。
おもしろいおばさんもいるよ。

住 所 札幌市北区北19条西3丁目2番33-100号
TEL・FAX 011-758-3232 **定休日** 土・日・祝
営業時間 13:00～17:00 **運営者** NPO法人 楽しいモグラクラブ
アクセス 地下鉄南北線北18条駅1番出口より徒歩5分

喫茶すまいる

聴覚障がい者がスタッフとなり手話で交流を図り、
出会いと喜びを共有できるカフェです。

住 所 札幌市豊平区美園9条6丁目2-2
TEL 011-832-5900 **FAX** 011-818-0203 **定休日** 土・日・祝
営業時間 11:00～16:00 **運営者** NPO法人 北の青空
アクセス 地下鉄東豊線美園駅2番出口より徒歩3分

西野厨房だんらん

毎日食べても飽きない家庭のご飯、手作りのパンケーキなど
食事とお茶と、お喋りできる場所。

住 所 札幌市西区西野8条9丁目18-67
TEL・FAX 011-671-1443 **定休日** 月・日・その他(1月～3月は冬期休業)
営業時間 10:00～16:00 **運営者** NPO法人 ぐるーぽ・びの
アクセス JRバス停留所「西野8条8丁目」下車、徒歩5分

ふっとわーく

地域での交流の場。喫茶営業、手作り品・リサイクル品販売。
お気軽によってください。

住 所 札幌市豊平区豊平4条12丁目1-25 センチュリーハイツ1F
TEL・FAX 011-825-6422 **定休日** 土・日・祝
営業時間 11:00～16:30 **運営者** NPO法人 あしの会
アクセス 地下鉄東豊線豊平公園駅1番出口より徒歩10分

Cafe 叶夢里

生涯教育の受講生の就労体験研修の場として実施中。
食の道を研究し健康を守るカフェ!

住 所 札幌市中央区大通西18丁目2-8-1北海道NPOプラザ
TEL 011-633-0213 **FAX** 011-215-9161 **定休日** 日
営業時間 10:00～17:00 **運営者** NPO法人 北海道生涯教育総合研究センター
アクセス 地下鉄東西線西18丁目駅3番出口より徒歩1分

三世代交流ひろば café垂麻人

三世代交流ひろばcafé垂麻人は、多様な世代が気軽に
立ち寄る「地域のお茶の間」です。

住 所 札幌市北区麻生町6丁目高橋ビル2階
TEL 080-2870-9735 **FAX** 011-299-6012 **定休日** 月・日・祝
営業時間 10:00～16:00(土曜日は15:00まで)
運営者 NPO法人 子育て支援ワーカーズ プチマト
アクセス 地下鉄麻生駅1番出口より徒歩3分

cafe べりい

街中にありながら、静かな空間で思い思いの過ごし方が
できるCafeです。

住 所 札幌市中央区南3条西4丁目16-2 3・4キノシタビルB1
TEL 011-206-8829 **FAX** 011-251-5105
定休日 土・日・祝・夏期・冬期
営業時間 11:00～15:00 **運営者** 特定非営利活動法人 とらいわーく
アクセス 地下鉄大通駅より徒歩5分

SHINANO GARDEN

私たちは地域の方々笑顔になれるような
食事・パン・ケーキ作りを目指しています。

住 所 札幌市厚別区厚別中央5条2丁目5番地10
TEL 011-211-8931 **FAX** 011-211-8932 **定休日** 土・日・祝
営業時間 10:00～16:00 **運営者** NPO法人 PCNET
アクセス JR厚別駅より徒歩5分

ユニバーサルカフェ minna

素敵な人・美味しいもの・楽しいことと出会える場、
自分らしくいられる場を目指しています。

住 所 札幌市南区真駒内上町3丁目2-12
TEL・FAX 011-200-9449 **定休日** 月・日
営業時間 10:30～17:00 **運営者** 特定非営利活動法人 MINNAの会
アクセス 地下鉄南北線真駒内より徒歩15分

しみサポ10周年記念 川柳

日ごろからご利用いただいているみなさまから川柳を募集しました。お題は「しみサポ10周年」。これまでの活動の歩みや、「しみサポ」に対するユーモアあふれる作品をご応募いただきました。その一部をご紹介します。

しみサポと交流コーナー 市民の宝

麦わらの虫かご

しみサポを育てた愛の憩いの場

たくちゃん

「しみサポ」のつながスイッチ 市民の灯

ともき

しみサポは茶の間のような居心地です

表秋

しみサポが描く大きな市民の輪

岡崎 守

しみサポは優しさ心にしみるとこ

@

エルプラザ 色んなことを得るプラザ

まさき

行く頻度 大学よりもエルプラザ

北大生

職員の「お願い」の笑顔について「イエス」

オーヒラマサジ

エルプラザ 笑顔で出会う人とひと

荒井 克則

職員の余計なお世話が自慢です

とんちゃく句

しみサポの仲間に学ばいい出会い

玲子

違いこそ認め合って友となり

NPOになった会員

活動は色とりどりにそれぞれに

とんちゃく句

しみサポの出会いと奇跡 希望なり

可憐

10年の輝き集う 広場かな

いぼち

しみサポが活かしてくれた個のやる気

たまねぎおじさん

しみサポも市民に愛され 早や十年

山並

編集後記

「始めるのはひとり、思ったひとりの活動から始まるもの」とは、ある市民活動団体の人の言葉です。最初はひとりでも、月日を重ねるごとに賛同者が増えていく。そんな活動を10年後も続けていられたらいいですね。(能地)

自分がボランティアの仕事に携わるとは、10年前には夢にも思っていませんでした。今まで、エルプラザを拠点に活動していた多くの団体さんが羽ばたいて行ったようですね。私も羽ばたけたらいいな。そうなるように頑張ろう。(大平)

祝・開館10周年！センターが残してきた足跡は、札幌の「まちづくり」の足跡そのもの。登録団体の皆さんの頑張りを、センター職員の皆さんがバックアップしながらの10年間。編ボラの私達は、これからもセンターと共に、市民活動の「今」を伝えていきます！(靱山)

座談会で10年前を振り返り、年始には昔の写真を整理しました。その時々で感じていたこと、考えていたことは違いますが、どの瞬間が欠けても今はないんだなぁと実感しています。美しく泥くさく日々を重ねていきたいです。(片瀬)

しみサポ10年はエルプラ10年。そこでクイズです。①「エル」の由来？ ② エルプラの以前の建物？ 正解は①建物の形から、②手形割引・丸一企業の2階建ビル。「活動は、十年十色、とりどりに」これから10年もお世話になります (ケイン)

10年前に同じ大学に通っていた同期が、最近大きな脚本コンテストで優勝し、映画化が決まりました。10年で大きな差がつきました。でも、凄く刺激になりましたね。独創的な道を切り拓くのは、行動あるのみ。同期が見せてくれました。(手皮)



「しみサポ」は市民活動サポートセンターの「しみ」と「サポ」をとって付けた愛称です。

研修や交流に関する事業の実施をはじめ、助成金情報や団体のイベント情報などの案内、印刷機、打ち合わせコーナー、PCコーナーなどがあり、事務所としてご利用いただける事務ブースも設置しています。

<http://www.shimin.sl-plaza.jp/>



詳しくはこちら

みんなのしみサポ 編集ボランティア会議



10周年記念誌の発行に向けてミーティングを重ねました。

この10周年記念特別号は「札幌市の市民活動の10年」を振り返り「これからの市民活動の10年」を皆さんと一緒に考えたい」という「編集ボランティアスタッフ」の発案がきっかけになっています。